

## 市指定文化財 掛川城御殿古図

## ●「掛川城御殿古図」と安政の大地震

江戸時代後期に描かれた絵図で、現存している国指定文化財「掛川城御殿」の往時の姿が記録されています。昭和55年8月20日に掛川市の指定文化財となりました。この度、所蔵者の方より掛川の歴史・文化の発展に役立ててもらえればと市へ寄贈していただきました。

嘉永7年(1854)11月4日、東海・熊野海岸沖で起きた安政東海地震によって、幕末の掛川城下は建物の倒壊とその後発生した火災による被害を受けています。掛川城も同様に被災し、御殿にも被害が及んでいます。

「掛川城御殿古図」は、この震災後に再建された御殿の姿が描かれている数少ない貴重な資料と言えるのです。



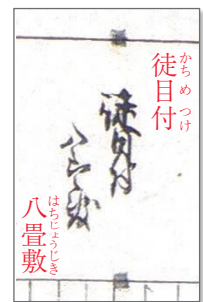
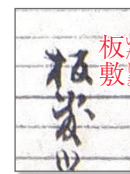
「安政大地震絵」  
(国立国会図書館デジタルコレクション)

## ●何が描かれているの？

絵図からさまざまな御殿の様子を読み取ることができます。当時の間取りはもちろんのこと、部屋の名前や使っていた役職名、部屋の広さが詳細に書き込まれています。

例えば、床が畳の部分と板敷の部分で明確に示しており、身分や役職、慣習によって部屋の造りや機能が異なっていたことがわかります。

「掛川城御殿古図」を手に、江戸時代の面影を残す場所、近代以降の時代と共に変化した場所を探す御殿めぐりの旅をしてみたいはいかがでしょうか。時代を超えた発見があるかもしれません！



## ●ここがポイント？現在の御殿と比べてみよう！

## その1 雪隠(トイレ)

御殿入口から西側にみえる廊下…

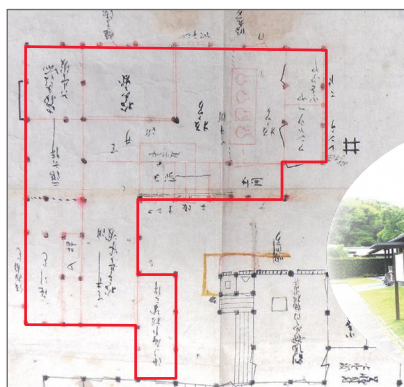
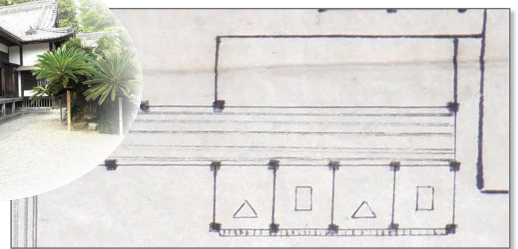
その先にある「△□」マークは雪隠です。

藩主と謁見する「次之間」から廊下が伸びていることから重要な客人用だったのでしょくか？



雪隠があった跡の風景

「今の木が生えているあたりですね！」



「井戸は今でも残っていますね！」

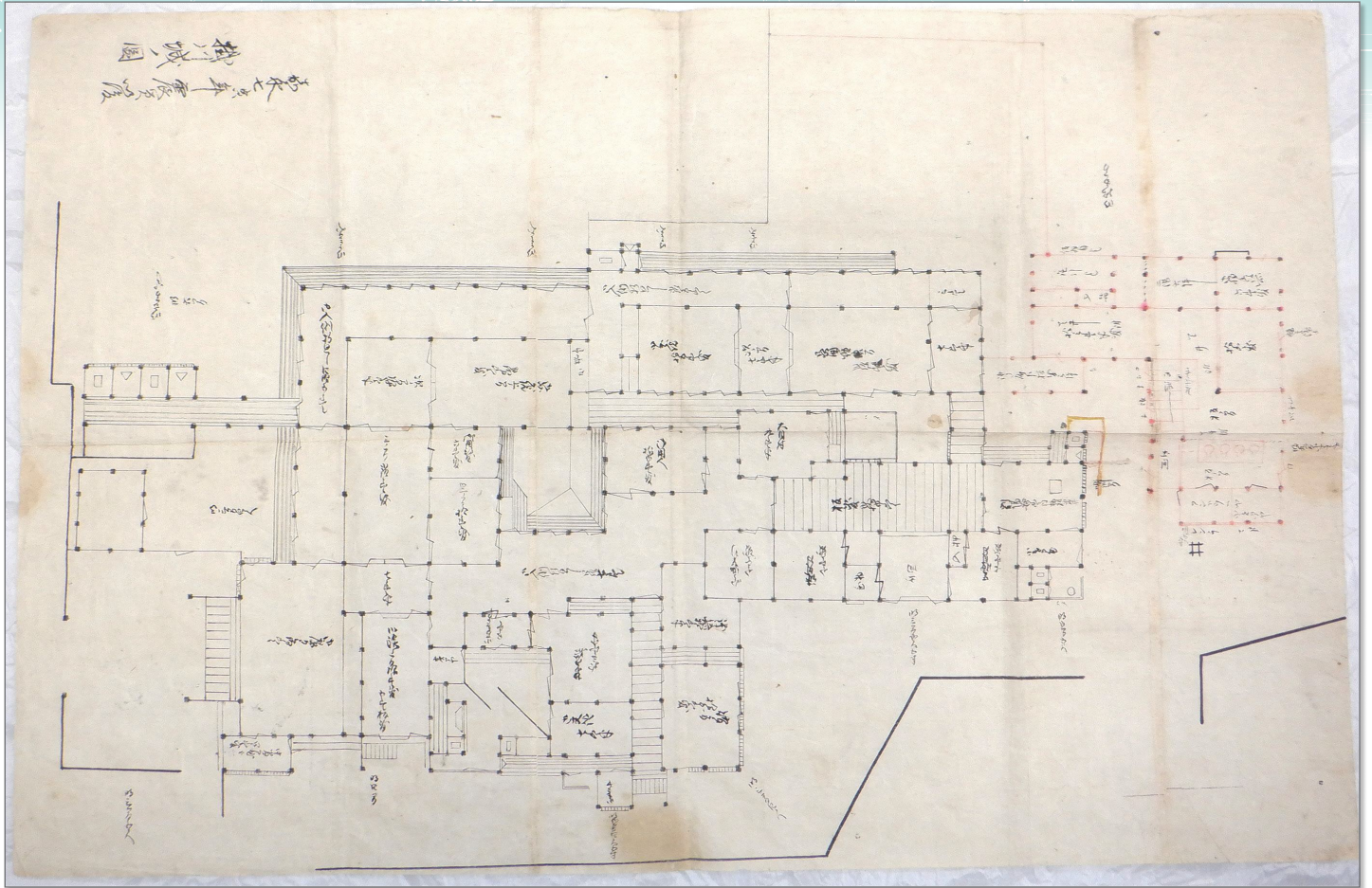


井戸から「御勝手台所」をみた風景

## その2 幻の台所「御勝手台所」

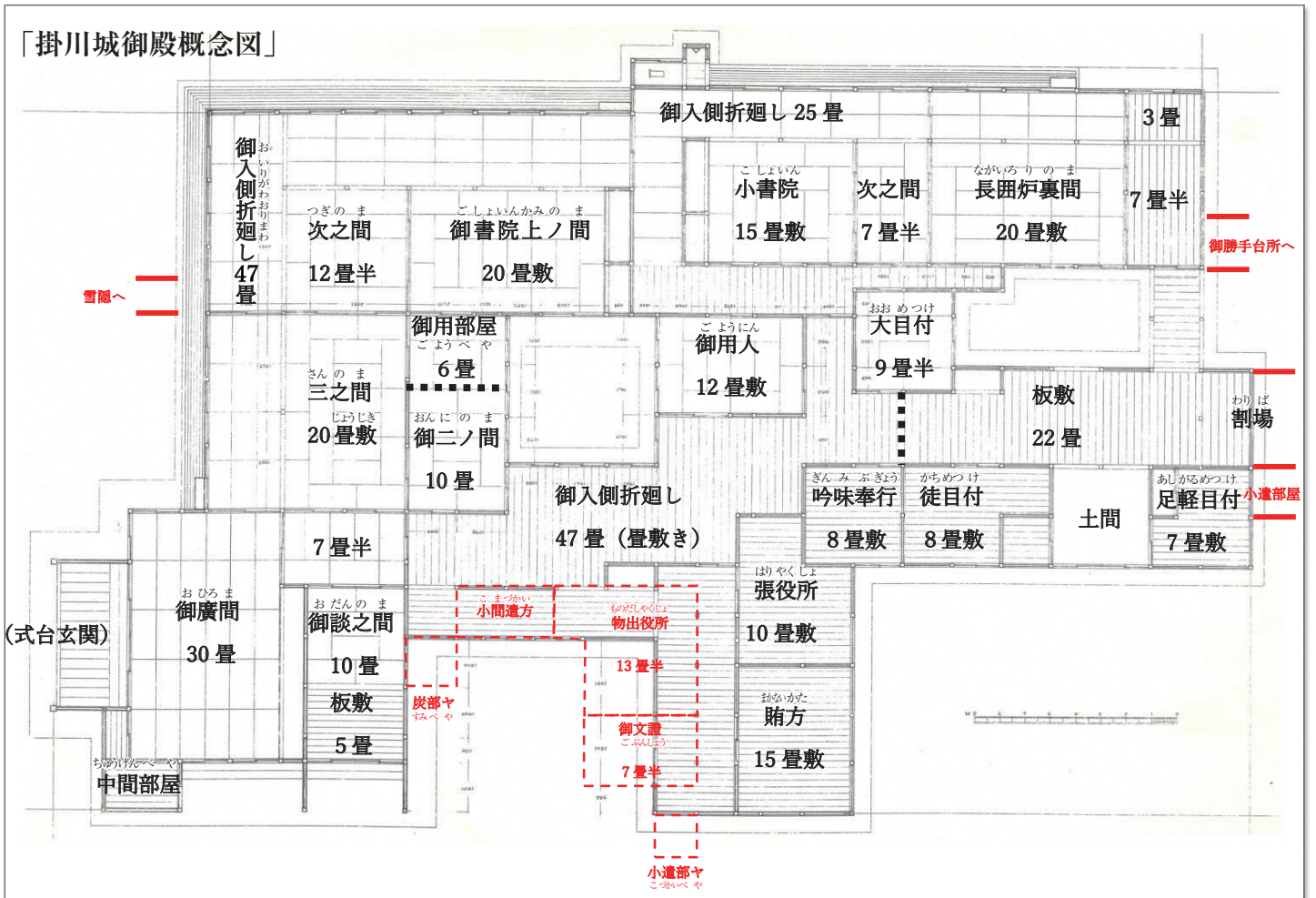
文久年間以降(1861～)に新設され、御殿へ食べ物を給仕していました。明治時代に取り壊されており、現在は二の丸美術館となっています。発掘調査では、基礎にあたる礎石が発見され、地震を教訓に基礎をより強固にしたことが明らかになっています。

新旧「御殿図」をみる



「嘉永七寅年震災以後掛川城ノ図」（掛川市）

「掛川城御殿概念図」



「竣工平面図」（復元図面）（『静岡県指定文化財 掛川城御殿修理工事報告書』に加筆）

- 「史料」内の文字を翻訳したものは黒太文字で示し、注記は（ ）で表記した。
- 「掛川城御殿古図」に示されているが、現存していない部分は、赤字・赤点線で示した。